



新たな水資源の確保に向けた取り組みについて（平成 21 年 6 月定例会）

菅野ダムでは、現在、1日あたり、周南市、下松市の17の企業に42万トンの工業用水を供給していますが、毎年のように自主節水をしている状況であり、節水状況によっては、生産活動に影響が生じる場合もあるので、ユーザー企業側も、大変な苦勞をしておられるようです。

そのような中で、今年の春、周南地域における新たな工業用水の確保を図るため、企業と行政が連携・協働して、「省水型・環境調和型水循環プロジェクト」を実施するという、とても嬉しいニュースが届きました。

現在、多くの下水処理水は利用されることなく海に放流されておりますし、一方、海水の淡水化は、水が大きく不足している中近東や、日本においても沖縄県や福岡県等において実施されておりますが、非常に造水コストが高いことが難点です。そこで、これを低コストで運転したいという目的で、海水を淡水化するためのプラントを造り、その過程において、現在、海に放流している下水処理水を再利用し、できた水を工業用水に利用するという実証実験の装置を造ることが決まったそうです。

計画によりますと、この実証実験のプラントは、周南市の櫛浜地区にある徳山東部浄化センターに整備し、事業費は約1億6千万円となっております。

現在、世界の水資源問題は深刻化しており、海水を淡水化することでの水資源の確保は大きな脚光を浴びています。

この実証実験が成功した暁には、新たな工業用水の確保に向けた取組に加速が付きまますので、企業における新たな事業展開が促進されます。また、一方では、新たなウォータービジネスが展開されることにより、周南市から全国へ、また世界に向けて、新たな水資源循環システムに係る情報発信を行うことができます。

ぜひ、この水循環プロジェクトが成功し、その実証成果が実用化され、地域の水需要への対応と世界の水資源の確保に貢献できるよう大きな期待をしております。

新たな工業用水の確保に向けて周南市で行われている水循環プロジェクトについて、今後、どのように取り組んでいかれるのか、お伺いいたします。

【商工労働部長答弁】

水循環プロジェクトにつきましては、水ビジネスの国際的展開を図ろうとする民間事業者と山口大学が事業主体として、経済産業省の委託を受け、お示しのように徳山東部浄化センターにおいて、下水処理水と海水を組み合わせることにより塩分濃度を下げて造水コストを低減するシステムを開発し、実用化試験を行うものであります。

今年度末を目途に、この試験の中で、国際展開に向けて、造水コストの低減や安心して利用できる水質確保の方策等について実証を行うとともに、周南地域における、工業用水として利用可能な水質及び水量の確保、造水コストの試算など、水循環実用プラントの事業化の可能性について検討を行う予定であります。

周南地域における事業化に向けては、施設整備費の低減や効率的な事業実施手法など、検討すべき多くの課題がありますことから、今後設立予定の、地元企業、山口大学、周南市及び県等から構成される「周南地域造水プロジェクト推進協議会」において、水循環プロジェクトの知見やノウハウ等を活用しながら、新たな工業用水の確保に向けて、協議・検討を進めてまいります。